

平成 30 年度 利用者懇談会

日 時： 平成 30 年 12 月 22 日（土）午後 5 時 30 分から 7 時まで

場 所： 関戸図書館

出席者： （利用者） 6 名

（図書館）図書館長、図書館本館整備担当課長、企画運営担当主査、
関戸図書館長、関戸図書館職員、企画運営担当職員

○ 前半 図書館ホームページについて（操作説明）

30 分程度、図書館ホームページの使い方について、職員が画面を操作しながら説明し、新システムについての意見を伺い、質疑応答を行った。

○ 後半 懇談会

日頃の図書館サービス、図書館運営について意見をいただいた。

蔵書の廃棄について

利用者： 古い資料をよく読むので、図書館を便利に使っている。古本屋やアマゾンで調べてもない本が所蔵されていたり、1960 年代の雑誌『文藝春秋』を貸し出す図書館があることに驚いている。

新本館では開架をかなり増やすということだが、除籍の基準をどこにおいているのかを、詳しくわかりやすく教えていただきたい。

図書館： 都立図書館に所蔵がある、多摩地域の複数の図書館に所蔵がある等を条件に、利用頻度が高くなく、多摩市が廃棄してしまっても他から入手できることなどを、除籍の判断基準にしている。

利用者： 利用頻度だけで切り捨てるのは、図書館のすがたとして問題ではないか。例えば、1980 年代に出版された原発に関する本だが、未だに解決されていない原発事故の問題を考えるうえで必要な資料ではないか。こうした本を近隣図書館に所蔵があるからといって除籍してしまうのは、いかがなものか。小出版社が出版した希少な本、その分野を知る人には貴重な本が廃棄されてしまい、検索してもヒットしない。貸し出される頻度が低くても、借りたい人はいる。参考文献として紹介されている本も、廃棄されて読めない。古い本にもニーズが発生する可能性があることに着目して、廃棄の基準をもう少し厳格にし、資料を大切にしていきたい。

利用者： 私も除籍について興味がある。昨年の利用者懇談会でも、どのような基準で廃棄されているのか質問した。理系の分野でも古い本が、廃棄されたのか所蔵がないことがある。各分野の本の価値を図書館職員が判断するのは難しいのではないかと。本の価値の判断を市民に聞けば良いのではないかと。新着図書のリストを作成するように、廃棄予定図書をホームページから見られるようにできないか。今回

のホームページのリニューアルで、お気に入りの本を「マイページ」に登録できるようになったので、廃棄してほしくない古い本は「お気に入り」に登録している。「お気に入り」に登録されているかどうかは、職員が確認することはできない

図書館： 「お気に入り」に登録されているかどうかは、職員が確認することはできないしくみになっている。

利用者： セキュリティ上の問題だと思うが、誰が「お気に入り」に登録したかはわからないようにし、廃棄の対象から外せるしくみがあれば、救える本が増える。知人からも「とても良い本がリサイクル本になっていた」と聞いた。価値のある本がリサイクル本にされている例はたくさんあるのではないかと思います。

雑誌について

利用者： 保存スペースの問題もあると思うが、雑誌の保存期限が2年というのは短い。政治問題を扱う雑誌は10年くらい遡って読めると良い。新本館では、書架スペースが広くなると思うので、雑誌の長期保存を希望する。

図書館： 雑誌については、貸出を重視して保存期限を短縮してきた経緯があるが、新本館を前に保存期限の見直しを進めている。今回いただいたご意見も参考にしたい。

利用者： 雑誌『出版ニュース』については、何度も希望したが、受け入れてもらえなかったが来年3月で廃刊になることが決まった。『出版ニュース』は図書館にとっても大事な雑誌ではなかったか。市民がこの雑誌に接することができなかったことは、図書館にとっても大きな損失だ。この雑誌を選ばなかったことについて、図書館人としてどうか。雑誌についてきちんと検討し、選んでほしい。

図書館： 市民要望を勘案し、取捨選択し選ぶ中では『出版ニュース』は選ばれなかった。記事の内容は、図書館の仕事に関わる情報として職員で共有していた。

利用者： 市民が読むことができなかったのは残念だ。

新本館について

利用者： 新しい図書館ができるとなると、来館者数などを目標にしがちだが、これからの多摩市の図書館に何が求められるかー基本計画で方向は出ていることではあるがー市民ときちっと語り合う機会を持ち続けたいといけないと思う。単に建物を建てること以上に、どういうサービスに力を入れて提供するのかということ、市民と対話し続ける必要がある。利用者懇談会をもっと大事にして、開催頻度を高くし、図書館のファンである人々のニーズをしっかりと捉えるにはどうしたらいいか、考え続けてほしい。それがないと何のために新館を建てるのかという話になる。

図書館： 蔵書の廃棄、保存については、多摩地域の26市の中で、都立図書館の所蔵状況を見ながら、互いに協力して最後の2冊をなんとか保存していこうと取り組んでいるが、分野ごとの分担収集を行うといった議論までは進んでいない。雑誌につ

いては、電子化が進み、紙の雑誌が休刊になる例が増えてきている。図書館サービスにおける個々の問題についてはすぐに結論付けられるものではなく、市民の皆さんの意見を聞きながら、解決に向けて進めていかなければならない。

新本館についても、計画ができたのであとは設計者に任せるということはできず、たとえ新本館の建物が完成したとしても、市民が求める図書館サービスとは何かは、図書館の職員が永遠に受け止め続けていかなければならない。

利用者：

新本館については、図書館のホームページに基本計画については載っているのが、これからどのようなスケジュールで計画が進んでいくかという、非常に大事なポイントについて記載がない。基本計画策定時にも伝えたが、市民と同じスケジュール感をもって、どこでどのような議論をすればいいのかがわかることが大事だと思う。「プロポーザルをやっていました」の情報はあっても、いったいどういうときに市民が意見を言える場があるのかかわからない。

また、図書館自身が悩んでいること、例えば今の話のいわゆる共同保存書庫の問題にしても、もっと利用者と話したほうがよいと思う。他市と比べたとき、多摩市は多摩ニュータウンくらいしか特色のあるコレクションが出しにくいのではないか。どういうコレクションを持てば、地域の課題の解決に役に立つか、もっとも市民と対話しながら進めてほしい。地域にはいろいろな方がいる。人という資産を活かすために、図書館が媒介になることは大事だ。ぜひ、共通のスケジュール感もてるよう、ホームページで情報にアクセスしやすいようにしていただくとともに、良いタイミングで市民と意見交換する場を設けてほしい。

図書館：

パルテノン多摩改修、図書館本館再整備、多摩中央公園再整備のスケジュールが合わせてわかるようにと市のホームページのトップページに掲載しているが、図書館のホームページには掲載していない。

今後建物の設計に進んでいくが、その途中、途中で市民の方に情報を公開しながら意見をいただく機会をもつ必要があるので、設計者への提案依頼項目でも、市民意見を聞きながら設計を進めることをどう考えているかを、聞いている。今後、設計を進めるにあたり、市民への情報公開やご意見の募集は何らかの形で続けていきたいと考えている。

利用者：

新しい図書館の名称は「中央図書館」になるのか。中央図書的な機能をもつ本館なのか。地域館を含めた図書館のシステムについては、基本計画の中にも明記されていたと思うが、地域館との関係、機能を維持していけるようにしてほしい。運営については、基幹部分については直営だが、ほかの部分についてはまだ方向が明確になっていない気がする。いつどのように決めるのか、地域館が全部委託になるようなことがないか確認したい。

図書館：

新しい図書館の名称については、図書館の条例の中で決めることになる。名称については、自治体によっては愛称をつける例などいろいろあるが、公募などはまだ考えていない。機能としては中央図書館の機能を考えている。

利用者：

名称はどうあれ、市が直営で責任を持って運営していくことを基本にしてほしい。

- 図書館： 今いる職員を更に育て、新しい職員も育てていかないと直営は維持できない。
- 利用者： 中心館以外は全部指定管理という図書館もある。委託している図書館もある。そういう館では職員の気持ちも統一されていない。市民サービスよりも採算がとれるとかが大事なのか、職員が下を向いて仕事していて、直営とはレベルが違うと思う。
- 図書館： 直営でありさえすれば良いということではない。図書館のサービスネットワークとして有機的に機能することが重要。「直営なのにバラバラ」と言われないようにしなければならない。

図書館ホームページについて

- 利用者： ホームページで地域館の宣伝をきちんとしてほしい。9月のおはなし会の案内が、9月が終わってもまだ掲載されているというような例があった。おはなし会の予定は前もって決まっているのだから市民が知ることができるよう掲載してほしい。おはなし会を担当しているボランティアの側でも、参加する子どもが増えるよう、新聞販売店に広告をお願いするなどしてみんなで工夫している。そういうところも汲んで、多くの市民に情報が届くようにしてほしい。
- 図書館： ホームページでの伝え方については、いろんなご意見をいただいている。改善が必要と思っている。
- 利用者： 催し物についての情報がホームページの下の方にある。図書館によっては、個別の図書館のページに行くとリンクが見えやすいようになっている。場所が分かりづらいので改善を検討した方がよいのではないかな。
- 図書館： ホームページは7月にリニューアルしたので、もっと PR をしたいと思っている。特に、こどものページや図書館利用の少ないティーンズ向けのページを作り、イベントは写真も入れながら見やすいように作ったが、図書館のホームページを熱心に見ていただく方がいる一方、図書館のホームページ自体の存在も全く知らない方がいると思う。図書館のホームページ自体をもう少しPRしないといけないと思っている。
- 利用者： どのくらいリニューアルのPRをしているのかを確認してきたが、ホームページのリニューアルについては子ども向けのお知らせ一覧のところにしか載っていなかった。これしかPRできないだろうかと思った。

地域資料における映像資料について

- 利用者： 図書館で所蔵している郷土資料の中に旧住宅都市整備公団から寄贈されているVHSビデオがたくさんあるが、今VHSを再生できる環境にある市民は、ほとんどいないと思う。以前、DVDディスクに焼く提案をした際、著作権が絡む話と聞いたが、きちんと著作権者の了解を得て複製を作っておかないと宝の持ち腐れになる。その資料でしか見ることができない団地についての映像もある。ディスク

の費用を考えても、予算がかかる話とは思えない。著作権の権利関係を整理し、ぜひ複製を作り、見られるようにしてほしい。

図書館： 以前から VHS ビデオの映像資料を DVD ディスクに焼く要望をいただいている。予算に関しては、個人で複製する場合とは異なる。著作権については著作権者に相談すれば承諾を得られるのではないかと内部では考えている。具体的に決まっていないが、資料を保存し、次の世代に伝えるために前向きに検討している。

Free Wi-Fi について

利用者： 図書館だけでなく市の公共施設の中で無料の Wi-Fi を使えるようにしてほしい。特に図書館で使えたら便利だ。図書館から要望して、多摩市全体の公共施設で無料の Wi-Fi を繋げられるようにしてもらえたらとても便利になる。他の市では、無料で繋げられる Wi-Fi がよくある。

図書館： 紙の資料も大事だが、ノートパソコンを持ち込みながら、紙の資料も併用したいということもあると思う。前向きに検討していきたい。

利用者： 豊ヶ丘図書館の2階の学習コーナーで Wi-Fi が使えるようにしてもらえると、若い人も来てくれるのではないかと。若い人達が来てくれるように願っている。

図書館： 若い人だけでなく、本館の学習室では、パソコン持込で利用している人が多い。また、最近の子どもはテレビさえ見ず、スマホから情報を得ていると聞く。このようなことから Free Wi-Fi の環境は必要ではないかと考えている。

レファレンスサービスについて

利用者： 地域館も市民からのレファレンス（参考業務）に応えることができるようにしてほしい。大栗川の防災の歴史を調べようとして地域館で職員に聞いたところ、適切な資料を提供してもらえず、違う分野の本を紹介された知人がいる。レファレンスは図書館の職員の経験の積み重ねによると思うので、直営の図書館で良くなっていけば、地域館にも広がっていくのではと思う。

職員： レファレンスはどの館でも受け付けおり、その館で解決できなければ図書館全体で調査し、組織として解決する。そのために地域資料係もいる。職員が利用者の質問を的確に捉えられなかったか、地域資料についての知識が不足していたか、経緯はわからないが、地域館でもレファレンスに応えることは当然のことだ。職員を育てる意味でも長い目でみていただき、これからは窓口でレファレンス質問をしていただきたい。

利用者： 即座にその場で答えられなくても、改めて連絡をして回答すると答えれば、問題がなかったのでは。

図書館： レファレンスサービスは、職員個人の知識ではなく、資料をもとに図書館が組織として回答するものであることをご理解いただき、利用していただきたい。

各館の特色について

- 利用者： 先ほど「直営でもバラバラになっては困る」という意味の発言があったが、地域館に特色、独自性をもつことを許すような雰囲気があるとよい。現状でも制限しているとは思わないが、特色、独自性を持つことを促してもよいと思う。
- 図書館： 職員個々にも言えることだが、新しい発想があったときは、伸ばした方が良いということもある。各館についても、ある程度は共通性を持ちながら、ある程度は独自性があったほうが良いと考えている。

関戸図書館からのお知らせ

- 図書館： 関戸図書館では、子どもやティーンズの来館・利用が増えるよう、書架を大幅にリニューアルした。活動室は、おはなし会等の利用がないときは学習室として開放しており、ティーンズ世代の利用がある。新しいティーンズコーナーは学習室への通り道で本が目にとまるよう工夫している。
- また、年初めには、関戸図書館だけではなく、図書館職員が選んだ本を入れた「福袋」の貸出を行う。新しい発想に出会えると思うので、楽しんでいただきたい。関戸図書館の入り口近くには、テーマで本を集める企画展示を行っている。ふだんは手にしないような本も目にとめてもらえるようにしているので、ぜひご利用いただきたい。

基本計画、基本設計について

- 図書館： 新本館の話がでたが、今日ご意見をいただいたように、建物を完成させるだけでなく、職員の育成や蔵書についても重要と考えている。現在曖昧になっている地域資料の収集基準や新本館と地域館の蔵書の配分、新本館での本の並べ方、見せ方など、少しずつ検討しながら準備を進めている。
- また、新本館開館の準備を市民から意見を取り入れながら進めるべきという意見をいただいた。今回のような利用者懇談会や窓口など、いろいろなかたちご意見をいただきながら進めていきたい。
- 本日は、ありがとうございました。